

# 平成 29 年度 学び舎ひまわり 第 3 講 開催報告

日 時 平成 29 年 10 月 14 日 (土) 10:00 ~ 16:45  
会 場 下永谷地域ケアプラザ → 区役所 601 号・602 号会議室  
受講生 28 名 (地域 19 名 区役所 7 名 ケアプラザ 2 名)

## プログラム内容

様々なジャンルの取組 5 つをとりあげ、現地見学や当事者による取組の講義をうけ、その後グループ別に意見交換をしました。

事例① 絆塾♡下永谷の取組～防災・減災【現地見学】 紹介者：守口美弥子さん、石川勝也さん



自治会町内会ではそれぞれ防災訓練を行っていますが、「今まで以上に人と人が繋がる下永谷」を目指してケアプラザや社協と協力して様々な取組を行っています。地域の防災設備や地形を確認しながら歩いたり、ポリ袋料理を体験する防災サバイバル体験会をはじめ、ケアプラザを拠点として活動している人たちが地域の核になってもらえればと、ケアプラザ文化祭を開催しています。今後は小学校や幼稚園などともつながっていきたいと思っています。



### 【受講生からの意見・気づき】

- ◎ケアプラザとのつながりを持っていることがポイントの 1 つだと思った。
- ◎今後の取り組み予定として、近隣に住む外国籍の方に料理を教えてもらいサバイバル体験に盛り込む、HUG 訓練を中学生に体験してもらうなどを考えていると聞いた。T シャツを作って一体感を持ってもらうなどの工夫もあった。

## 事例② 南台町内会の取組～担い手の確保①

紹介者：原田 紘司 さん



子ども会を卒業した子たちが、地域の活動から離れるのではなく、継続して関わってもらえるよう積極的に委嘱委員を通じて声かけをしています。子どもたちにとっては、「いつか自分もお兄さんがやっている役割を担いたい」という目標になっています。また、子ども会は南台町内会に住んでいる子どもは全員加入する仕組みになっています。負担感を少なくするため、負担金は0円。役員は順番に行っていますが、みんなで仕事を分け合っています。役員も自分たちがまず楽しむことが大切だと思います。

### 【受講生からの意見・気づき】

- ◎子ども会がうまく活用できている。
- ◎自治会加入率が90%を超えるということに驚いた。
- ◎自分の自治会では子ども会がないが、声かけをしたい。
- ◎子ども会の役員になった人に、負担感だけを感じさせるのではなく、楽しいと思ってもらえるような工夫が大切だと思った。
- ◎どこの町会も中学生以上の年齢層のグループ化にてこずっていた。
- ◎「自治会で子供が活躍できる環境で育った子は、大きくなって自治会に帰ってくる」「若い世代を取り込むことで、町会加入率UP!」という会長の言葉が印象に残った。
- ◎町会の活動に参加をさせたくても学校との関係や周囲の環境など調整が必要。



## 事例③ 上永谷町内会の取組～担い手の確保②

紹介者：高橋 克彦 さん



東日本大震災をきっかけに、中学生のチカラを地域で活かさないかと考えるようになりました。そこで上永谷中学校にて行われる町内会主催の夏祭りに中学生ボランティアを募集することにしました。中学生が書いてくれたお揃いのTシャツを着用しボランティアをしてもらっています。学校側が地域との関係づくりをしたいという意向もあり、2014年からは総数約800人が話し合う地区懇談会が発足しました。地域と中学生の顔の見える関係づくりが進んでいます。また、できた繋がりを活かして、「上永谷町内会青年団」を立ち上げ中学生から高齢の方まで自由に参加しています。

### 【受講生からの意見・気づき】

- ◎中学校との連携が非常に強いと思った。
- ◎地区懇談会を行うことで、中学生がどんな取組をしたいか、それを吸い上げ実現に移しているところが素晴らしい。
- ◎地区懇談会以外にも町会と学校がつながる機会を設けていた。
- ◎「青年団」と言っていたが一番上は80代。お揃いのユニフォームづくりなどビジュアルから入っているところも良いと思った。
- ◎学生には、「自主性」「顔の見える関係」を求めている、という話があった。



#### 事例④ 港南台西自治会 の取組～地域の魅力づくり

紹介者：谷本 吉年 さん



港南台西自治会は120世帯で、行事も少なく、子ども会もなくなりました。役員は輪番制です。私はスポーツ推進委員をしていますが、そんな中で学び舎ひまわりを昨年受講したところ、様々な取り組みをしている自治会があることを知りました。

顔の見える関係づくりを行おうと、ハイキングやお花見など行事を企画したものの、負担増を避けたい役員とのやりとりや悪天候などがあり、未だに一つも実現していません。しかし企画をする中で申し込み人数が増えたり、協力者が増えたりなど繋がりは少しずつできていると感じています。

##### 【受講生からの意見・気づき】

- ◎私の町会は、谷本さんの町会にそっくりで、世帯数もほぼ同じ、子ども会も無くなり、合併の話も出ている状態ですが、共感しました。
- ◎ちょこっとのお手伝いなら立ち上げることもできるのでは。
- ◎実行委員会形式なら役員ではなくても担い手が生まれる。
- ◎子どもが重要！6年生の卒業時にボランティアをに誘ったり、子ども自身に何をしたいか聞いてみるといいかも。
- ◎子どもがいると若い父母が動いてくれる。
- ◎サッカーや野球チームの人に声をかけてみては。
- ◎自治会の仕組みの課題（輪番制の長所や短所、規約など）がある。



#### 事例⑤ 日野南連合・地区社協の取組～見守り支えあい

紹介者：上田 昭則 さん



日野南地区は高齢化率42.4%と区内で一番高い地域です。超高齢化した自分たちを守るため、支えあい三本柱のシステムを作りました。1本目は商店街のお店の協力を得て来店者や歩行者を見守ってもらう「見守りネット」、2本目は日頃のちょっとした変化に気づいたら民生委員に報告してもらう「支えあいサポート」、3本目は希望者にちょこっとした日頃のお手伝いを登録ボランティアにしてもらう「ちょこっと助け合い」です。どのシステムも、無理のない範囲で活動してもらえるところがポイントです。

##### 【受講生からの意見・気づき】

- ◎支えあいサポートには、守秘義務等に対する疑問も出たようだが、趣旨を書いた紙を全戸配布することで理解を進めていた。
- ◎ボランティアにとっても無理のない範囲で行えるよう、業者に頼めるところは頼むなどの工夫をしていた。
- ◎子どもを巻き込んだ取組も行っており、多世代交流行事も今年度から行っているということだった。子どもに投資しよう！
- ◎自治会加入率について、入率が減ったところ変わらないところの特徴を話し合った。
- ◎小学校は地域とつながっているが、中学校は学区が広い。学区の違いは課題だが、区別はしていない。



## 講師 内海氏よりコメント



港南台西自治会と日野南地区の取り組みに共通しているのは「顔の見える関係づくり」を進めているところ。日常の関係づくりが災害時にもつながる。

絆塾、南台町内会、上永谷町内会に共通していることは「食」と「子ども」。食を取り入れることで、地域のまちづくりで立場を超えて繋がりが出来る。「食」と「子ども」が生き抜くキーワードではないかと感じた。

どの事例も様々な人が関係していた。紆余曲折様々なことを考えながら進めていると感じた。どこが自分の団体と違うところなのか、に気がつくことから始めてほしい。キーワードやポイントが隠れていると思う。

## 学びのまとめ 集計結果

出席 28 名（地域 21 名 職員 7 名） 回答数 28 件 回収率 100%

満足	やや満足	やや不満	不満	未記入
21	5	0	0	2
75.0%	17.9%	0%	0%	7.1%

### 受講生の声（抜粋）

#### ◎絆塾について

- ・とてもよかった、参考になった。（多数）
- ・サバイバル料理を自分の町内会の防災訓練で紹介したい。
- ・絆塾はイベントにケアプラザを有効に活用されているのに興味を持った。
- ・大規模地震発生机上シミュレーションは大変勉強になりました。
- ・菌の関係やアレルギーの関係でおむすびや鍋は出来なかったが、ポリ袋料理なら導入できると感じた。
- ・楽しいと思い出来ていること、毎年新たな要素を入れ企画されていることなどに感心しました。

#### ◎午後の事例紹介、ワークについて

- ・南台町内会の取組はとても知りたかったこと（青年部立ち上げ、中学生の参加）勉強になりました。
- ・食と子どもがキーポイントかもしれないと思いました。
- ・地域にとって中学生との連携は重要。（平日の昼間は高校生以上の人は地域にいない）
- ・地域と学校との関係は、ワンセットで考え勧誘することが必要。
- ・上永谷町内会の中学生の取り込み方が、無理なく中学生自身のモチベーションを上げるものだったので感動した。中学生を取り込むのは「顔の見える関係を作る」ためとの発言が素晴らしかった。（職員）

下永谷地域ケアプラザの皆さん  
ありがとうございました！

